



# 環境リモートセンシング 研究センター

Center for Environmental Remote Sensing

## Newsletter No.201

千葉大学環境リモートセンシング研究  
センター ニュースレター 2022年8月  
発行：環境リモートセンシング研究センター  
(本号の編集担当：樋口篤志)  
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33  
Tel: 043-290-3832 / Fax: 043-290-2024  
URL: <https://ceres.chiba-u.jp/>

## 木更津高校が大気観測機材の見学のため来校されました

夏真っ盛りの8月5日に、木更津高校の神谷先生と高校1年生の生徒二人が、入江研究室を訪問され、千葉大学西千葉キャンパス内にある工学系総合研究棟Ⅰの屋上にある国際地上観測網（SKYNET、A-SKY）の千葉サイトに設置されている大気観測機材を見学されました。木更津高校はスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校です。神谷先生は、数年前、CERes内の久世・入江・齋藤研に在籍していた大学院生でしたが、立派な教員になっていて大変嬉しく思いました。高校1年生の生徒さんたちには、入江研究室の学生の海塚君、米谷君、野本君がうまく説明してくれ、大気環境観測に大変興味を持っていただけたようでした。



国際地上観測網（SKYNET、A-SKY）の千葉サイトに設置されている大気観測機材見学の様子

（入江仁士）

## 福島第一原発の廃炉状況を視察してきました

～ 小槻研究室通信・第18号～

今回の視察は、環境省推進費「原発事故地域における森林火災後の放射性物質・再拡散予測システムの開発」（代表：福島大学・五十嵐康記）の一環として実施しました。福島第一原発については、最近の汚染水など数々の報道がありますが、やはり現場を訪れ、自分の目で見て理解に努めることで、情報の

肌感覚が全く異なることを改めて実感しました。私が個人的に印象深かったのは、科学コミュニケーションの難しさです。現在の汚染水の対策などは、現場で説明を受けると、「数値」としては過大な対応をしていると感じました。それでも、住民の理解を得るのは難しい問題です。私に関わるムーンショット・気象制御研究も、これから10年20年かけて国民・国際的理解を得ていかねばならないプロジェクトです。近藤先生がいつもおっしゃることですが、「科学技術を創ること」を、「科学技術が社会で活かされること」に結び付けるために、私自身も社会合意形成に関する理解を深めねばならないと感じました。心に刻もうと思います。

(小槻峻司)

最後に、今回の出張のとりまとめをしてくださった福島大学の五十嵐康記先生、東京電力の皆さまには貴重な機会を提供して頂くと同時に、現場での丁寧な説明など、大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。なお、既に福島第一原子力発電所の構内は線量も落ち着いており、視察は安全に実施されました。

(一同)



(左) 視察中の1コマ。背後の左右は、廃炉作業中の2・3号機です。



(右) 1号機建屋。視察日は快晴で、建屋の状況とのコントラストが印象的でした。

☆本視察に同行した学生含め3名の感想を研究室HPにて掲載しております。ぜひご覧ください。

こちらからどうぞ ➡ **小槻研究室 HP へようこそ**(<https://kotsuki-lab.com/2022/09/08/2603/>)

## ■ 受賞報告：JpGU 2022 学生優秀発表賞 ■

入江研究室修士2年の海塚収英と申します。この度、日本地球惑星科学連合2022年大会(JpGU2022)の学生優秀発表賞を頂きましたことをご報告させていただきます。皆様にご報告できることを大変嬉しく存じます。

本大会は5月22日～6月3日の期間、ハイブリット形式で開催されました。私は大気水圏科学の大気化学セッションにて口頭発表で参加いたしました。



